आयुर्वेद प्रकाश

アーユルヴェーダ・プラカーシャ

volume4

目次
1p…巻頭言
2p…第 42 回日本アーユルヴェーダ学会大阪研究総会の報告
第 43 回日本アーユルヴェーダ学会福島研究総会
3p…100 回洗ったギー
理事の動静
column
4p…理事紹介
事務局便り

巻頭言

2020 年は新型コロナウィルス感染一色の年になりました。2021 年に入っても、まだ終息は見通せない状況です。考えてみると、ヒトを含めて、すべてのいきものは、これまでも多くの感染症や過酷な環境変化を経験し、さらにそれを乗り越えてきました。コロナ前に戻そう、という発想ではなく、コロナを含めて、感染症を乗り越えた先にある、あらたな世界が 2021 年から広がっていくことを期待しています。

【　新たな学会開催様式へ
第 42 回日本アーユルヴェーダ学会
大阪研究総会　】

アーユルヴェーダ研究会発足から 50 年。日本で 2 回目の夏季オリンピック。その記念すべき年に開催される 2020 年大阪研究総会。色々な方との出会いの場となる学会。

そう思っていましたが、コロナ禍での会場参加型の学会開催は、かないませんでした。一方で、田澤大会長、斎藤実行委員長をはじめ、多くの実行委員の尽力もあり、内容・質ともに素晴らしい、オンライン配信での学会が開催できました。また予想を上回る数の参加者様で盛会となりました。あらためて、スタッフ一同はもとより、ご参加、ご視聴いただいた方々に誌面をお借りして御礼申し上げます。また、2020 年 11 月 Ayurveda Day の催しは各地各所で行われましたが、私が参加させていただいた会を含め、ほとんどオンライン開催になりました。今回を皮切りに、学会やセミナーの開催様式も変わっていく、その第一歩となったと感じています。

2021 年の日本アーユルヴェーダ学会は、9 月に福島での開催を予定しています。依然、感染状況の予測は難しいこともあり、開催様式については随時情報をお伝えしてまいりたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

【　Digital India　】

第三産業革命と呼ばれるデジタル化。デジタル化ということば自体がちょっと古臭い気もしますが…。日本では 2020 年新型コロナパンデミックを契機に、ようやく本格的に脱ハンコ化、ペーパーレス化がスタートし、IT 担当省が設置されますが、インドではコロナ禍以前から、”Digital India” をスローガンに、5 年前には通信 IT 省が設置されています。

『医療の未来年表』などの著書がある奥真也先生先生のセミナーを聞く機会がありました。著書によると、医療分野では、2030 年に AI 診察が主流になり、2035 年にはがんの大半が治癒可能になると予測されています。感染対策、利便性向上として、オンライン、AI が日常に入ってくる一方で、ヒポクラテスのことば「ひとは自然から離れるほど病気に近づく」が思い起こされます。自然とのつながりを感じながら、アーユルヴェーダの基本となる、個々人にあった日々の生活、季節の過ごし方、食養生を実践して、難局を乗り越えましょう。

一般社団法人日本アーユルヴェーダ学会 理事長 北西 剛

ネーミングしていただいたクリシュナ UK 先生のコメントです
ニュースレターの名前をアーユルヴェーダ・プラカーシャ（आयुर्वेद प्रकाश）とします。
　プラカーシャとはサンスクリット語で、様々な意味を持ち、縁起のいい言葉でもあります。明るさ・輝き・光・光沢・上の上などの意味でよく用いられます。
　アーユルヴェーダの知識を輝かせ、アーユルヴェーダに関する無知をなくし正しい知識を広め、「読者の皆さんにアーユルヴェーダがもっともっと光って見えるためのニュースレターでありますように。」という願いを込めて。

第 42 回日本アーユルヴェーダ学会 大阪研究総会の報告

大会長　　田澤 賢次
日本アーユルヴェーダ学会理事
（富山大学医学部　名誉教授）

第 42 回日本アーユルヴェーダ学会大阪研究総会は、2020 年 10 月 2 日～ 4 日の 3 日間、大阪国際会議場で開催予定で、大阪近郊の会員を含む十五名の実行委員の無償の尽力と、多くの方々のご協力により、大変順調に準備が進んでおりましたが、新型コロナ禍のパンデミックという想定外の事態となり、開催に伴うあらゆる危険を想定し、参加者の健康と安全に、最善の配慮をさせていただき、大阪国際会議場での開催を中止とし、2020 年 8 月 7 日に完全オンライン開催に決定、全ての講演、発表をオンライン配信にして、視聴していただき無事に2021年1月7日に終了しましたので報告させていただきます。

一昨年の第 41 回東京総会の台風、今年の新型コロナ禍は、当学会だけではなく、今後の学会開催のあり方についても、色々な示唆を与えてくれることにもなりました。

さて、2020 年は、1970 年にアーユルヴェーダ研究のための準備会が、丸山博先生を中心に大阪で発足してから、ちょうど五十年目になりましたので、この五十年間の歩みの歴史などを、今回の講演で振り返り、五十年前に蒔かれた歴史が、今、花ひらいて頂きたく、大阪研究総会のテーマを「いま、花ひらくアーユルヴェーダ 2020」とさせていただきました。

大会長しては「１２００年の間に創られた日本人に合う食生活は～汝の食事を薬とし、汝の薬は食事とせよ～」の講演をさせていただき、日本人の大腸がなぜ欧米人より長くなったかについて解説し、石塚左玄（写真）の食育論について紹介させていただきました。

海外招聘講演として、インドからの講師来日も難しくなったために、事前収録によるビデオ講演に、また、三十五年前に日本の臨床に導入された「クシャーラ・スートラ」は、シンポジウム「クシャーラ・スートラ　和讃化の 35 年」として、研究から臨床への三十五年間に金沢大学の研究の下で完成した「日本産クシャーラ・スートラ」の実績も紹介させていただきました。

スペシャル企画として「新型コロナウイルス感染症をアーユルヴェーダの歴史より治療法を分析する」を特別に入れさせていただき、また、特別セッション「インドリヤ（感覚器官）を科学する」や、ランチョンセミナーを含めて、合計 36 講演をオンライン配信として 1 月 7 日までオンデマンドでご視聴いただけるように配慮させていただきました。会員によるポスター発表は中止となりましたが、ビデオ講演とし、発表者の一人を大阪大会賞として表彰いたしました。

「こころとアートマンは身体に宿る」というテーマのワンデーセミナーでは、 7名の講師による講演のほか、数名の講師による特別セッションも動画としてオンライン配信させていただきました。

新春1月には、学会員の研究支援の一環として、次期福島大会との共同企画として「新春特別講演」として、「臨床研究、初めの一歩」を追加して、Zoom によるライブ配信することになりましたことも報告いたします。

いずれの講演も、アーユルヴェーダ研究 50 年の節目にふさわしい大阪研究総会として、充実した内容を参加者にお届けることができ、アーユルヴェーダ学会としては、これまでで最多の 767 名の参加者数を得ることができ、学会員のみならず、一般からの参加者も全体の 51%にもなり、将来の日本アーユルヴェーダ学会の会員増加に寄与できることと大会長として喜んでおります。

最後に、副大会長をはじめとして実行委員会の皆々様には、新型コロナ禍の下で、合計 22 回の Zoom ミーテングを開催させていただき、大変にご苦労をお掛けいたしましたことに深く謝意をお伝えしたく思います。

石塚左玄先生：（1851 年～ 1909 年）59 歳
尿毒症にて逝去 (明治の時代、医者の治せぬ病を、食事を変えることによって次々と治した「食医」として、食養・食育論に生涯を捧げた。)

学会初のハイブリッド開催！ 9 月は福島大会（20 年ぶり）へ集合！！

第 43 回日本アーユルヴェーダ学会福島研究総会
大会長　舟久保 徳美

第 43 回日本アーユルヴェーダ学会福島研究総会が福島市のコラッセふくしまで開催されます。2021 年は東日本大震災から 10 年の節目にあたります。復興した福島に是非足をお運びください！

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点と、これまで場所や時間の都合などで来場できなかった方にもお届けできるよう、会場とライブ配信のハイブリッド方式＋後日オンデマンド配信での開催予定をしています。また、抄録集広告以外に WEB 広告としてバナーや紹介ページも大会 HP に掲載しますので、皆さまのご応募お待ちしております！

今回のメインテーマは「超高齢化社会を見据えたアーユルヴェーダによるアンチエイジング～いつまでも元気で生きるために。細菌叢やアーユルヴェーダからの提案～」です。現在、日本は超高齢化社会となり、健康寿命の延伸が大きな課題となっています。アーユルヴェーダは 5000 年以上前から健康長寿について説いています。このために非常に大切なものはアグニ（消化力）ですが、この一部と考えられており、最近非常に注目されている腸内細菌叢や口腔細菌叢に焦点を当て、素晴らしい先生方をお迎えしてご講演をいただきます。また市民フォーラムにも特別ゲストをお招きしています。詳細は、

100 回洗ったギー

日本アーユルヴェーダ・スクール
副校長　及川 史歩

アーユルヴェーダで治療を行う時、古典記述に則った治療薬を使って、古典記述に則った診断法を行うのがアーユルヴェーダ医の仕事である。

しかし、時には古典の中には詳しい説明がなされていないものでも、実践の場では多用されている製薬もある。その中の一つにシャタダウタ・グリタという軟膏がある。
原料はギーのみである。ただ製薬法によりギーの持つ冷性という特徴をより強く加工して使う。
シャタダウタとは 100 回洗浄するという意味であり、シャタダウタ・グリタとはそのまま 100 回洗ったギーという意味である。

作り方は、銅の器の中でギーに冷たい水をかけて、その水がぬるくなるまで洗う。ぬるくなったら水をまた冷たいものに取り替えて洗うということを 100 回繰り返すのである。

写真のように黄色味を帯びたギーが、だんだんと回数を重ねるうちに白くふんわりとしてくる。また銅の入れ物で行うことにより、菌の繁殖を抑え、銅の成分もギーに取り込まれていると予想される。このギーは出来上がると火傷、痔核、など炎症している箇所の灼熱感を鎮静する働きをする。

加工前のギー

加工後のギー

私の患者さんに前立腺の癌で局所的に放射線を当てて完治はしたものの、その後下血が頻発して、定期的に坐薬で止血しているが、灼熱感と下血、排便後の不快感を訴える方がいた。座薬の代わりにこのギーを排便の後に肛門に直接塗布していたら、下血がなくなり、また灼熱感もなくなった。
現代医療を受けつつ、アーユルヴェーダのシンプルな塗り薬で、長年の強い不快感を改善できたことは今後も統合医療としての可能性を感じる出来事であった。

大会 HP をご覧ください。

第 43 回日本アーユルヴェーダ学会福島研究総会

＜日程＞
ワンデーセミナー：　2021 年 9 月 24 日（金）
福島研究総会：　2021 年 9 月 25 日（土）、26 日（日）
市民フォーラム：2021 年 9 月 26 日（日）午後

＜会場＞
コラッセふくしま（福島駅西口徒歩 3 分）
福島県福島市三河南町 1 番 20 号

＜福島研究総会ホームページ＞
https://ayv2021-fukushima.com/

＜問い合わせ＞
info@ayv2021-fukushima.com

COLUMN

インドで、ドラヴィヤグナ（薬理学）を教えてくれた先生に、たった 1 鉢だけ、自分の家で薬草を育てるとしたら？と、聞いたら、答えはグドゥチでした。グドゥチ（Tinospora Cordifolia）は、Cordi（心臓 / ハート型の）＋ folia（葉）をもつ蔓草で、強い苦味による解熱作用を持ちますが、３つのドーシャどれも下げる素晴らしい作用がある万能薬なのです。呼吸器にも良い作用があるので、コロナ対策の切り札として需要が高まっています。漢方薬の防已とよく似た、車輪のような模様が、蔓の切り口に見られます。

もう一つのよく知られた名前はアムリタ。サンスクリット語の否定詞のア＋ムリタ（死）＝不死の薬草という意味です。これがあれば死なない、という意味もありますが、この植物自体が、不死とも思えるものすごい生命力を持っています。蔓草を、下の方から切って収穫すると、上に残った切り口から糸のような根が垂れて地面を探し、またそこから茎を伸ばしていくのです。

我が家の庭にも蔓をいけておきましたが、ずっと芽を出さず、枯れ枝のようになって諦めていました。しかし梅雨が始まると、死んだかに見えた枝から、素晴らしい勢いで蔓が伸び始めて、アムリタという由来がよくわかりました。東京の気候でも十分に育ちそうです。

サトヴィック・アーユルヴェーダ・スクール代表
佐藤真紀子

理事長の動静 (2020 年 4 月～ 12 月)

7 月
●免研アソシエイツ協会　アーユルヴェーダ関連発表
10 月
●第 42 回　日本アーユルヴェーダ学会　大阪研究総会開催
11 月
● Ayurveda Day 2020 参加
12 月
日本統合医療学会　アーユルヴェーダ関連発表・ミニレクチャー
「アジア健康構想」実現に向けた東洋医学のエビデンス作成に向けた実証可能性等調査報告書配本

理事紹介

「2020 年 11 月 7 日　静岡新聞」

常葉大学教授。文学博士。
専門分野：
異文化コミュニケーション。
医療資格：はり師、きゅう師など。
関連著書：『日本の食の近未来』熊倉功夫編「食のとらえ方のパラダイムシフトを求めて-アーユルヴェーダを照射板として」思文閣出版（2013）

清　ルミ

常葉大学教授。文学博士。専門分野：異文化コミュニケーション。医療資格：はり師、きゅう師など。

「病気になったら病院に行き、器械の部品修理のように治療を受ける」という健康観に 10 代の頃より疑問を感じ、予防医学、東洋医学を学び始める。20 代前半、温熱療法療術師免状取得を皮切りに、アジア、欧州に出かけては現地の伝統医学、民間療法を片っ端から習得。大阪アーユルヴェーダ研究所基礎講座、専門（薬物学）講座修了。

職業とは別にライフワークとして代替医療に携わり 35 年。10 年前、全身不随でおむつ生活となった母がハタイクリニックのアーユルヴェーダ治療で寛解。以来、実家で家族に週 1 回アーユルヴェーダと中医学の統合施術を継続。前立腺ガン、心臓疾患、脳梗塞の父は 95 歳で仕事現役、ステント、バイパス手術必至と言われた夫は無手術、逆子で帝王切開と言われた姪も逆子を治し自然分娩。家族全員ＱＯＬ極めて高く、東洋医学の智慧の恩恵に日々感謝。2 年前、難治性トリプルネガティブ乳ガンで手術。術後の病理検査結果も最悪で抗ガン剤、放射線療法 must と 1 時間半説得を受けたが、直感とこれまでの自身の臨床経験により拒否。患者の気持ちがよりわかるようになり、ガンは神様からのギフトだったと感謝している。

家族用トリートメントルーム

（一般社団法人、日本ヨーガ療法学会　常任理事）【略歴】1983 年に初めて渡印し、ラージャ・ヨーガ修行開始。2001 年にヨーガ教師／療法士養成講座を受講開始し 2003 年に学会認定ヨーガ療法士資格取得。（一社）日本ヨーガ療法学会理事。（一社）日本アーユルヴェーダ学会理事。

八軒 恵佳

（一般社団法人、日本ヨーガ療法学会　常任理事）【略歴】1983 年に初めて渡印し、ラージャ・ヨーガ修行開始。2001 年にヨーガ教師／療法士養成講座を受講開始し 2003 年に学会認定ヨーガ療法士資格取得。（一社）日本ヨーガ療法学会理事。（一社）日本アーユルヴェーダ学会理事。

アーユルヴェーダ学会との出会いは、35 年前（1983 年 6 月）インド、デリーにあるホーリーファミリィーホスピタルにおける、アーユルヴェーダ医師、ビーマ・バット医師との出会いからでした。初めてインド医学の、人間的な接点の素晴らしさを、実感する事ができたのでした。以来、日本ヨーガ・ニケタン代表（木村慧心先生）が、インド各地やネパール、ヒマラヤ各地で修行されるときに、同行させて頂き、ヨーガの伝統的な智恵と共に、アーユルヴェーダの智恵も学ばせて頂く事が出来たのでした。

日本ヨーガ・ニケタンでは、バット医師を日本へ招聘して、アーユルヴェーダの実技指導も、学ぶ機会も出来ました。又、2020 年から今年にかけて、世界的に新型コロナウイルス禍の拡散の為、多くの人が集まる機会が制限される中で、幸いな事に、オンラインによる、世界の人々との接点も増えました。　今後も西宮市の地にあって、アーユルヴェーダ医学とヨーガ療法が、全世界に拡まっていく事を願い、皆様の手助けをさせて頂く所存ですので、どうぞ宜しくお願いします。（合掌）

【理事会メンバー紹介】　（50 音順）

北西 剛理事長、イナムラ・ヒロエ・シャルマ副理事長、木村宏輝副理事長、東 英子事務局長、清 ルミ監事、八軒恵佳監事
青山 圭秀、淺貝 賢司、安藤 るみ子、上馬塲 和夫、及川 史歩、小沢 アヤ子、木村 慧心、クリシュナ UK、佐藤 眞紀子、鈴木 八重子、田端 瞳、田澤 賢次、時信 亜希子、御影 雅幸

事務局便り

- 第 42 回日本アーユルヴェーダ学会大阪研究総会　大会長・実行委員の皆さま、コロナ禍での開催　ありがとうございました。
- 2020 年度までの年会費未納の方には払込用紙を同封しておりますので、ご入金をお願いいたします。銀行振込の場合は【ゆうちょ銀行 〇九九店 当座 0136960】までお願いいたします。年会費は 10,000 円、会計年度は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までです。
- 昨今の電子化の流れに従い、今後、主な連絡方法をメールに移行していきます。下記学会ホームページのお問合せフォームよりメールアドレスをご連絡いただきますようお願いいたします。
- 当学会の案内パンフレット（三つ折り）がございます。スクールやサロン等に設置してご紹介いただける場合は、必要部数をお送りいたしますので、下記学会ホームページのお問合せフォームよりご連絡ください。【https://www.ayv-society.com/pg1714.html】 QR コードを読み取っていただきますと、お問合せフォームにリンクいたします。

編集後記

毎日、新型コロナウイルスの話題ばかりで閉塞感が積もる一方だと思いますが、避けては通れません。ウイズコロナの時代の今こそ、アーユルヴェーダの叡智を活用し、各自が自身の健康を守っていかれることを期待しております。本誌がお手元に届く頃には、外出制限が全地域で解除されていることを願っています。

発行　**一般社団法人日本アーユルヴェーダ学会**
〒570-0075　大阪府守口市紅屋町6番8号
電話　06–6994–9250　FAX 06-6485-4889
mail　info@ayv-society.com
URL　https://www.ayv-society.com/